

戸建て住宅地における季節性の演出行為としての クリスマス装飾に関する研究

上甫木 昭 春¹⁾・澤 木 昌 典¹⁾・田 原 直 樹¹⁾・藤 本 真 里²⁾

Study on the Seasonal Effect of Christmas Decorations in Private Gardens on the Residential Environment

Akiharu KAMIHOGI¹⁾・Masanori SAWAKI¹⁾・Naoki TAHARA¹⁾・Mari FUJIMOTO²⁾

Abstract

We studied the relationship between Christmas decorations in private gardens and the residential environment by surveying residents in Kobe-Sanda International Garden City, Hyogo Prefecture. We found that Christmas decorations greatly contribute to improving the quality of the residential environment. Residents who have a more positive attitude towards Christmas decorations tend to have a stronger interest in the streetscape. We also believe that Christmas decorations in private gardens will become more widespread in the future with the increasing westernization of homes and gardens in new residential areas and with the realization of housing plans aimed at households with children.

Key words : private garden, streetscape, christmas decoration, residential environment

1. は じ め に

近年、戸建て住宅地において、季節性の演出行為として草花による沿道の修景やクリスマス期の外部空間の装飾などが盛んになってきている。ガーデニングブームにも見られるように、庭の使われ方の変化として、庭を外に見せながら楽しむといった開放的な庭づくりが新たな傾向として認識できる。本来、住宅地の街路景観は、道路本体および沿道空間さらには遠景などの様々な要素により構成され、中でも街路景観の質に決定的な影響を与える近景を構成する沿道空間の要素は、居住者の生活行動が顕在化したものとして捉えられる。したがって、個人の庭空間を季節的に演出する行為は、街路景観を含む居住環境の質に影響する生活行動として注目される。さらに、これからの住民主体のまちづくりの中で、私的空間での季節性の演出行為を、街路景観の質的な向上や地域コミュニティの活性化等に結び付けていく視点が

切になってくると考える。

これまで街路景観に関する研究は、街路景観の認識構造に関する研究、街路景観評価への影響要因に関する研究、景観評価に用いるメディアに関する研究など多面的な研究が行われてきている(下村, 1994)。その中で、私的空間を含めた街路景観やその変化性に着目した研究としては、接道部に係わる研究(田畑, 1983; 篠原, 1983)、昼夜間の景観変化に係わる研究(下村, 1991)などがあげられるが、私的空間での季節性の演出が街路景観に与える影響などを取り扱った研究は少ない(上甫木, 1998)。

ここで、戸建て住宅地において、年中行事に際して庭や建物を演出する生活行動は、街路景観に季節的な変化をもたらす行為として認識できる。これに係わる日本古来の年中行事としては、正月のしめ飾り、七夕の笹飾りなどが上げられるが、日本の生活文化の中で育まれてきた年中行事も近年変貌していることが報告されている(石井, 1994)。その中で、新しい年中行事としてクリス

¹⁾ 姫路工業大学自然・環境科学研究所 環境計画研究部 Division of Environmental Design, Himeji Institute of Technology, Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

²⁾ 兵庫県立人と自然の博物館 環境計画研究部 Division of Environmental Design, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo, Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

マスが上げられ、「正月」について高い実施率(約80%)となっている。本来、クリスマス自体は宗教的な行事であるが、現代生活を楽しむ日本人の年中行事として定着した生活文化になっているといえる。このクリスマスという年中行事に際して庭や建物を飾る行為が、クリスマス期の街路景観に変化をもたらしており、その装飾は、上述した日本古来の年中行事と比較して、街路景観に与える視覚的影響は大きいと判断される。

そこで本研究では、季節性の演出行為としてクリスマス装飾を取り上げ、その演出の実態、演出の理由、演出に対する居住者意識、演出に影響する諸要因などを調査解析することにより、街路景観の質の向上と庭空間でのクリスマス装飾との関係性やその演出性能を高めるための戸建て住宅地の計画のあり方などを検討することを目的とした。

2. 研究方法

1) 調査対象地

本研究では、神戸三田国際公園都市のフラワータウン、ウッドタウン、カルチャータウンの3地区の新市街地における戸建て住宅地を調査対象地とした。3地区は、兵庫県三田市の丘陵地に位置し、1970年代から開発が進められ、1997年1月現在計46,453人が入居している。3地区の計画概要は、表1に示すとおりである。戸建て住宅地の分譲状況については、開発主体別に募集パンフレットから年次別の分譲戸数及び分譲後の平均的な経過年数を把握した(表5参照)。

表1 3地区の計画概要

地区名	開発主体	計画面積(ha)	計画人口(人)
フラワータウン	兵庫県	339.0	34,000
ウッドタウン	住宅・都市整備公団	603.0	48,000
カルチャータウン	兵庫県	159.0	6,000

表2 演出実態に関する設問項目

1. 玄関扉などへのクリスマス・リースの取り付け (玄関扉のリース)
2. 鉢植えのコニファーなどへのクリスマス・ツリーとしての装飾 (鉢植え樹木を装飾)
3. 植えてある樹木へのクリスマス・ツリーとしての装飾 (植樹木を装飾)
4. 電飾によるイルミネーション(電飾)
5. とくに何もしなかった (何もせず)

表3 演出理由に関する設問項目

1. 隣近所などでされているのを見て(隣近所を見て)
2. テレビ映画・雑誌などを見て(テレビ雑誌を見て)
3. 自分の家をきれいに飾るため(家をきれいに飾る)
4. クリスマスを祝うため(クリスマスを祝う)
5. 自分の子どもを喜ばすため(子どもを喜ばす)
6. 道行く人を楽しんでもらうため(道行く人を楽しく)
7. 自治会や管理組合でしているため(自治会等の申し合わせ)
8. とくに理由はない(特に理由なし)

2) 現地踏査

現地踏査では、調査対象地における庭空間のクリスマス装飾について、電飾、植樹木の装飾、鉢植え樹木の装飾などの実施の有無を、1996年のクリスマス前1週間(12月17日～23日)に、同一地点を昼と夜各1回ずつ計2回踏査した。現地踏査は、庭空間でのクリスマス装飾の実態を把握するための予備調査と位置づけ、クリスマス装飾に関するアンケート調査地区を選定するための基礎資料とした。

3) アンケート調査

アンケート調査地区は、地域的バランスを考慮して各町それぞれ一つの丁目を選定することとし、各町内で比較的クリスマス装飾が多く実施されていること、分譲時期が分散することなどに配慮して、フラワータウン4カ所、ウッドタウン4カ所、カルチャータウン2カ所の計10カ所の丁目を選定した(表5参照)。アンケート調査は、各丁目内の戸建て住宅地に居住する世帯主を市の住民基本台帳から丁目毎に40%無作為に抽出し、郵送配布・郵送回収により1997年3月に実施した。配布数は1,141票で、有効回収票は578票(回収率50.6%)であった(表6参照)。アンケートの調査項目は、クリスマス装飾の演出実態、演出の理由、演出に対する意識、居住者および住宅の属性などである。

クリスマス装飾の演出実態に関する設問では、クリスマス期における庭や門口等の外部空間での演出の有無を、現地踏査を踏まえて設定した表2に示す5項目でたずねた。なお、設問項目にある「電飾」とは「多数の電球による装飾」を意味する。

クリスマス装飾の演出理由に関する設問では、クリスマス装飾を実施した回答者を対象として、表3に示す8項目を実施理由として想定し、該当するものすべてを選択してもらった。

クリスマス装飾に対する意識の評価項目としては、クリスマス装飾自体に対する居住者自身の評価構造やクリスマス装飾と街路景観やコミュニティ意識の向上といった居住環境形成との関連性を把握するために、表4に示す8項目を設定し、クリスマス装飾の有無にかかわらずすべての回答者に、各項目に対する感じ方程度をそれぞれ「感じない」「やや感じる」「強く感じる」の3段階で設問

表4 居住者意識に関する設問項目

1. 装飾用品の購入や電気代など経費がかかる(経費がかかる)
2. きれいな町にしようという意識が高まりよいことである(美化意識高揚)
3. 電飾(イルミネーション)はエネルギーの無駄遣いである(エネルギーの無駄)
4. 町ににぎわいや華やぎが出て楽しい(にぎわい楽しい)
5. 元来の日本の習慣ではないので、日本の町には馴染まない(日本に馴染まず)
6. 自分の家だけしていると、周囲から浮き上がってしまう(周囲から浮き上がる)
7. 隣近所で新たな話題が生まれ、つきあいがより活発になる(つきあいが活発に)
8. 生きている樹木への飾り付けは、樹木がかわいそうである(樹木がかわいそう)

表5 現地踏査によるクリスマス装飾の実態

調査対象地	分譲戸数 (戸)	装飾戸数 (戸)	実施率 (%)	経過年数 (年)
狭間が丘2丁目	266	1	0.4	8.4
*狭間が丘3丁目	364	6	1.6	13.5
狭間が丘4丁目	202	4	2.0	11.5
富士が丘1丁目	217	5	2.3	8.9
富士が丘2丁目	102	5	4.9	8.7
富士が丘3丁目	126	4	3.2	7.0
富士が丘4丁目	227	4	1.8	8.5
*富士が丘6丁目	283	18	6.4	9.2
弥生が丘1丁目	21	5	23.8	9.0
弥生が丘2丁目	285	13	4.6	8.0
弥生が丘3丁目	289	19	6.6	7.9
*弥生が丘4丁目	180	12	6.7	7.6
弥生が丘5丁目	147	12	8.2	5.9
武庫が丘2丁目	188	3	1.6	16.0
武庫が丘4丁目	132	1	0.8	15.0
武庫が丘6丁目	159	2	1.3	13.0
*武庫が丘8丁目	162	16	9.9	7.6
すずかけ台1丁目	185	3	1.6	10.1
*すずかけ台2丁目	293	7	2.4	10.0
あかしあ台1丁目	552	32	5.8	9.3
あかしあ台2丁目	48	6	12.5	6.8
*あかしあ台3丁目	355	23	6.5	7.7
あかしあ台4丁目	235	15	6.4	8.5
あかしあ台5丁目	168	9	5.4	6.9
けやき台3丁目	212	18	8.5	4.5
*けやき台4丁目	673	61	9.1	5.9
けやき台5丁目	171	22	12.9	4.4
*ゆりのき台1丁目	385	33	8.6	2.0
ゆりのき台2丁目	264	29	11.0	3.9
ゆりのき台3丁目	164	11	6.7	2.6
ゆりのき台4丁目	66	13	19.7	2.0
ゆりのき台5丁目	104	6	5.8	1.5
*学園5丁目(ワシントン村)	84	60	71.4	5.3
*学園6丁目(兵庫村)	130	11	8.5	6.0
全体	7439	489	6.5	

(注) *印はアンケート調査地区を示す。

した。

居住者及び住宅地の属性に関する設問項目は、家族構成、世帯主の年齢、家族の最若年齢、世帯主の職業、世帯主の勤務地、世帯年収、居住年数、敷地面積、建築面積、日常出入りする道路と建物の壁までの距離(道路と壁面の距離)、庭と日常出入りする道路との高低差(庭と道路の高低差)、生垣の高さ、建物の外観、庭のタイプなどである。

なお、設問内容の表現は、各設問項目後尾の()内に示したものを以下使用する。

4) 解析方法

(i) クリスマス装飾の実態の分析

現地踏査では、丁目別に装飾戸数を集計し、分譲戸数に対する実施率を算出した。アンケート調査では、丁目別、クリスマス装飾の種類別に回答戸数を集計し、外部空間でのクリスマス装飾の実態を把握した。その結果、複数の種類の装飾を実施しているケースが多く、クリスマス装飾に対する積極性の程度や庭空間の樹木を装飾に利用しているか否かなどに着目して、以下の5グループにクリスマス装飾タイプを分類した。

①[電飾+樹木装飾G(Gはグループ、以下同じ)]:最も積極的なクリスマス装飾を実施しているグループと判断され、「電飾」に加えて「鉢植え樹木を装飾」「植樹木を装飾」のいずれかを行った世帯。②[電飾G]:上記のグループに次いで積極的なグループと判断され、庭空間の樹木を装飾の対象とせず、「電飾」を行った世帯。③[樹木装飾G]:これもクリスマス装飾に積極的なグループと判断され、「電飾」は行わないが、庭空間の樹木を対象とした「鉢植え樹木を装飾」「植樹木を装飾」のいずれかを行った世帯。④[リース装飾G]:クリスマス装飾に対する積極性がやや低いグループと判断され、「玄関扉のリース」のみを行った世帯。⑤[無装飾G]:クリスマス装飾に対し

表6 アンケート調査の実態状況及びクリスマス装飾の実態状況

アンケート調査対象地区	現地の踏査実施率 (%)	アンケート調査実施状況			クリスマス装飾の回答状況 [回答率: %]					クリスマス装飾のタイプ別の実施状況 [構成割合: %]					
		配布数 (票)	回答数 (票)	回収率 (%)	玄関扉	鉢木 植を え装 飾	植 樹 木装 飾	電 飾	何 も せ ず	電 木 飾 装 飾 + 樹 G	電 飾 G	樹 木 装 飾 G	リ ー ス 装 飾 G	無 装 飾 G	
フワクワン	狭間が丘3丁目	1.6	149	76	51.0	18.4	6.6	1.3	3.9	77.6	1.3	2.6	6.6	11.8	77.6
	富士が丘6丁目	6.4	116	55	47.4	21.8	9.1	3.6	9.1	76.4	7.3	1.8	3.6	10.9	76.4
	弥生が丘6丁目	6.7	76	44	57.8	34.1	11.4	9.1	13.6	63.6	6.8	6.8	9.1	13.6	63.6
	武庫が丘8丁目	9.9	62	35	56.4	28.6	5.7	11.4	11.4	68.6	8.6	2.9	5.7	14.3	68.6
ウッティクワン	すずかけ台2丁目	2.4	116	61	52.5	26.2	9.8	3.3	4.9	65.6	4.9	0.0	8.2	21.3	65.6
	あかしあ台3丁目	6.5	143	64	44.7	42.2	10.9	3.1	17.2	46.9	3.1	14.1	7.8	28.1	46.9
	けやき台4丁目	9.1	294	147	50.0	40.1	9.5	9.5	21.1	53.1	10.2	10.9	6.1	19.7	53.1
カルチャクワン	ゆりのき台1丁目	8.6	104	52	50.0	38.5	13.5	7.7	15.4	51.9	3.8	11.5	13.5	19.2	51.9
	ワシントン村	71.4	31	16	51.6	87.5	37.5	75.0	93.8	0.0	81.3	12.5	6.3	0.0	0.0
	兵庫村	8.5	50	28	56.0	17.9	0.0	3.6	10.7	75.0	3.6	7.1	0.0	14.3	75.0
全体	6.5	1141	578	50.6	33.2	9.9	8.0	15.4	60.4	8.1	7.3	6.9	17.3	60.4	

て最も消極的なグループと判断され、外部空間においてクリスマス装飾を行わなかった世帯。

この分類をもとに、以下のクリスマス装飾の実施理由、意識評価、影響要因などの分析を行った。

(ii) クリスマス装飾の実施理由の分析

クリスマス装飾タイプ別に、クリスマス装飾の実施理由に対する指摘率を集計した。次に、クリスマス装飾タイプ別の指摘率の差を検討するために、実施理由ごとに、指摘の有る場合に1点、無い場合に0点を与え、クリスマス装飾タイプ間の有意差を分散分析により検定した。

(iii) クリスマス装飾に対する居住者意識の分析

クリスマス装飾に対する評価項目別に、その感じ方程度「感じない」～「強く感じる」に対して1～3点を与え、クリスマス装飾タイプ毎の平均値を算出した。次に、クリスマス装飾に対する評価項目別に、クリスマス装飾タイプ間の平均値の有意差を分散分析により検定した。

(iv) クリスマス装飾への影響要因の分析

クリスマス装飾に影響する諸要因を探るために、クリスマス装飾タイプと居住者及び空間要因とのクロス分析を行い、両者の関連性の有無を把握した。次に、有意な関連性が認められた要因について、クリスマス装飾タイプとの係わり方をクロス集計の結果から検討した。なお、クリスマス装飾に影響する居住者要因として、家族構成、家族の最若年齢、世帯主の年齢、世帯主の職業、世帯主

の勤務地、世帯収入、居住年数の7項目、空間要因として、敷地面積、空地面積(敷地面積から建築面積を引いたもの)、道路と壁面の距離、庭と道路の高低差、生垣の高さ、建物の外観、庭のタイプの7項目を設定した。

3. クリスマス装飾の実態

現地踏査によるクリスマス装飾の実施状況(表5)をみると、庭空間で「電飾」、「鉢植え樹木を装飾」、「植樹木を装飾」のいずれかを実施した割合(実施率)は、全体平均で6.5%となっている。丁目別では、学園5丁目(ワシントン村)での実施率が71.4%と極めて高いことが特筆される。当地区は、アメリカワシントン州の郊外住宅地をモデルに計画されたもので、他の丁目と異なる空間特性、すなわちアメリカのまちなみを模した開放的な芝生の庭の存在と後述する実施理由(自治会の申し合わせ)などが実施率の高さに影響していると考えられる。したがって、後述するクリスマス装飾に影響する空間要因の分析では、ワシントン村の影響を把握するために、ワシントン村を除いたケースについても分析した。それ以外の丁目では、実施率20%程度以下に留まっており、分譲後の平均的な経過年数が10年以上の地区では特に実施率が低い傾向にある。

アンケート調査によるクリスマス装飾の実施状況(表6)を種類別にみると、「玄関扉のリース」が全体で33.2%と最も高く、次に「電飾」15.4%、「鉢植え樹木を装飾」9.9%、「植樹木を装飾」8.0%となっている。「何もせず」が60.4%であるので、回答者の内約4割は、何らかのクリスマス装飾を実施していることになる。クリスマス装飾タイプ別にみると、「電飾+樹木装飾G」「電飾G」「樹木装飾G」が、それぞれ7~8%程度で、この3タイプを合わせると全体平均で22.3%となる。この値と現地踏査の結果(全体で6.5%)を比べると、比較的实施率の高い丁目をアンケート調査地区に選定したことを加味しても、アンケート調査での実施率が高い結果となった。これは、アンケート調査への回答がおそらくクリスマス装飾を実施した世帯に多かったであろうこと、あるいは現地踏査が終了した後に装飾を実施したケースも想定されることなどに起因すると推測される。

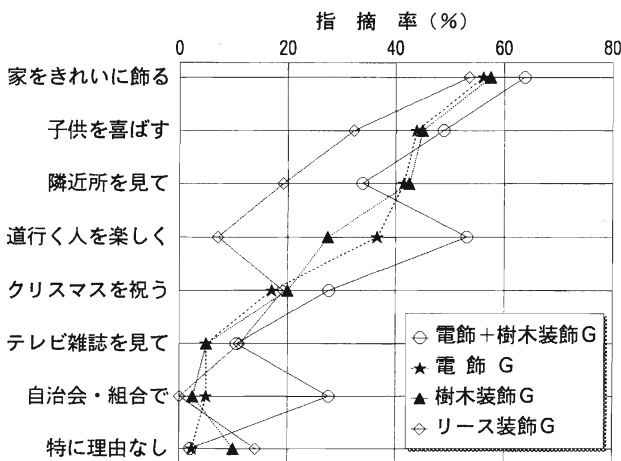


図1 クリスマス装飾の実施理由

	隣近所を見て				道行く人を楽しく				自治会等の申し合わせ				特に理由なし							
	指摘率	クリスマス装飾タイプ°				指摘率	クリスマス装飾タイプ°				指摘率	クリスマス装飾タイプ°				指摘率	クリスマス装飾タイプ°			
		①	②	③	④		①	②	③	④		①	②	③	④		①	②	③	④
①電飾+樹木装飾	34.0	-	-	-	53.2	○	○	○	○	27.7	○	○	○	○	2.1	-	-	-	●	
②電飾G	40.5	-	-	○	35.7	●	-	-	○	4.8	●	-	-	-	2.4	-	-	-	●	
③樹木装飾G	42.5	-	-	○	27.5	●	-	-	○	2.5	●	-	-	-	10.0	-	-	-	-	
④リース装飾G	19.0	-	●	●	7.0	●	●	●	●	0.0	●	-	-	-	14.0	○	○	-	-	

(注)○印及び●印は、行のグループが列のグループに対して、有意(有意水準0.05)に高い(○印)あるいは低い(●印)指摘率を示す。-印は、対応するグループの指摘率に、有意な差(有意水準0.05)がないことを示す。

図2 クリスマス装飾の実施理由に関するクリスマス装飾タイプ間の有意差

4. クリスマス装飾の実施理由

クリスマス装飾の実施理由に対する指摘率を、全体で高い順に並べて図化したものが図1である。図2は、クリスマス装飾の実施理由に関するクリスマス装飾タイプ間での有意差を検定した結果を示している。

クリスマス装飾の実施理由としては、「家をきれいに飾る(56%:全体での指摘率、以下同じ)」「子供を喜ばす(40%)」といった家庭的あるいは自己満足的な理由が高い指摘率を示している。これに続いて、「隣近所を見て(30%)」「道行く人を楽しく(25%)」という外部を意識した実施理由に対する指摘率が高く、これは個人の庭空間のクリスマス装飾が地域ぐるみでのクリスマス装飾に展開される可能性を示しているといえよう。一方、「クリスマスを楽しむ(20%)」「テレビ雑誌を見て(8%)」「自治会等の申し合わせ(7%)」などの指摘率は、相対的に低い値である。

クリスマス装飾タイプ別の指摘率をみると、「隣近

所を見て」「道行く人を楽しく」「自治会等の申し合わせ」「特に理由なし」で有意な差が認められる。特に興味深いのは、「道行く人を楽しく」という実施理由で、クリスマス装飾に対する積極性が強いグループほど、指摘率が高くなる傾向にある。これは、クリスマス装飾を積極的に実施する世帯ほど、街路景観への意識が高くなる傾向を示すものといえる。言い換えると、クリスマス装飾などの私的空間での季節性の演出が、街並み景観に配慮した庭空間の整備や管理を行う契機になることを期待させるものと考えられる。また、「リース装飾G」では、外部を意識した「隣近所を見て」「道行く人を楽しく」で、他のグループより指摘率が低い傾向を示している。なお、「自治会等の申し合わせ」はワシントン村のみで指摘されたものであるが、その他の実施理由については複数回答を可としているので、ワシントン村の特殊ケースはさほど影響していないと考えられる。

5. クリスマス装飾に対する居住者意識

クリスマス装飾に対する評価項目を、全体平均での感じ方程度が高い順に並べて図化したものが図3である。

図4は、クリスマス装飾に対する居住者意識に関するクリスマス装飾タイプ間での有意差を検定した結果を示している。

まず、クリスマス装飾により「まちのにぎわい」や「美化意識高揚」が、強く感じられていることが明らかとなった。その傾向を装飾タイプ別にみると、クリスマス装飾を実施しているグループでの評価が、「無装飾G」を有意に上回っている。「つきあいが活発に」は、上記の2項目より感じられ方がやや弱い傾向にあるが、「電飾+樹木装飾G」では、「リース装飾G」「無装飾G」などに比べて有意に評価が高くなっている。

クリスマス装飾に対する否定的な評価項目である「経

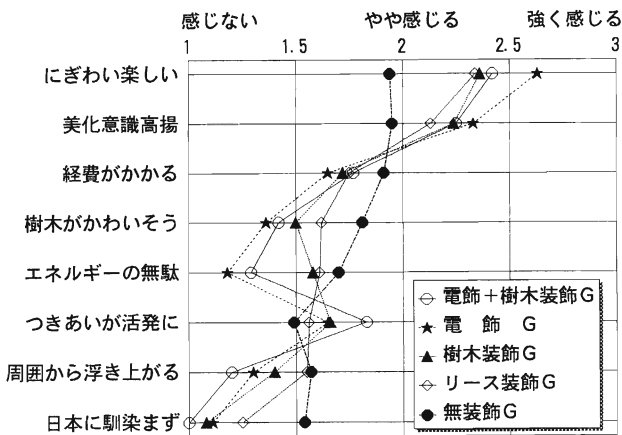


図3 クリスマス装飾に対する居住者意識

	にぎわい楽しい					美化意識高揚					経費がかかる					樹木がかawaiiそう								
	評価点	クリスマス装飾タイプ					評価点	クリスマス装飾タイプ					評価点	クリスマス装飾タイプ					評価点	クリスマス装飾タイプ				
		①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤
①電飾+樹木装飾	2.42	-	-	-	-	○	2.25	-	-	-	-	○	1.77	-	-	-	-	-	1.42	-	-	-	-	●
②電飾G	2.63	-	-	-	○	○	2.33	-	-	-	-	○	1.65	-	-	-	-	●	1.36	-	-	-	-	●
③樹木装飾G	2.36	-	-	-	-	○	2.24	-	-	-	-	○	1.72	-	-	-	-	-	1.50	-	-	-	-	●
④リース装飾G	2.34	-	●	-	-	○	2.13	-	-	-	-	○	1.75	-	-	-	-	-	1.62	-	-	-	-	●
⑤無装飾G	1.94	●	●	●	●	●	1.95	●	●	●	●	●	1.91	-	○	-	-	-	1.81	○	○	○	○	○
	エネルギーの無駄					つきあいが活発に					周囲から浮き上がる					日本に馴染まず								
	評価点	クリスマス装飾タイプ					評価点	クリスマス装飾タイプ					評価点	クリスマス装飾タイプ					評価点	クリスマス装飾タイプ				
		①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤		①	②	③	④	⑤
①電飾+樹木装飾	1.29	-	●	●	●	●	1.83	-	-	-	○	○	1.20	-	-	-	●	●	1.00	-	-	-	●	●
②電飾G	1.18	-	●	●	●	●	1.65	-	-	-	-	-	1.30	-	-	-	●	●	1.11	-	-	-	-	●
③樹木装飾G	1.58	○	○	-	-	-	1.66	-	-	-	-	-	1.40	-	-	-	-	-	1.08	-	-	-	-	●
④リース装飾G	1.61	○	○	-	-	-	1.56	●	-	-	-	-	1.55	○	-	-	-	-	1.25	○	-	-	-	●
⑤無装飾G	1.70	○	○	-	-	-	1.49	●	-	-	-	-	1.57	○	○	-	-	-	1.54	○	○	○	○	○

(注)○印及び●印は、行のグループが列のグループに対して、有意(有意水準0.05)に高い(○印)あるいは低い(●印)評価点を示す。

-印は、対応するグループの評価点に、有意な差(有意水準0.05)がないことを示す。

図4 クリスマス装飾に対する居住者意識に関するクリスマス装飾タイプ間の有意差

表7 クリスマス装飾と居住者要因との関連性

居住者要因 クリスマスの装飾タイプ	家族構成 + 世帯主の年齢					世帯年収				居住年数					
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	A	B	C	D	E	
電飾+樹木装飾G	+3.3	-1.0	-0.9	+1.1	-1.0	-0.5	-0.2	-1.1	+2.9	-0.4	+1.1	+1.7	-0.8	-2.1	
電飾G	+0.9	-0.6	+0.9	+0.5	-0.3	-0.3	-0.4	-1.7	+2.1	+0.6	-0.2	0.0	+1.9	-0.4	-1.9
樹木装飾G	+2.3	-0.2	-1.2	-1.2	-0.2	-0.2	-0.3	+0.3	-1.0	+1.3	+0.6	+0.6	+0.7	-0.1	-1.8
リース装飾G	+2.3	+0.6	-0.7	-0.7	-0.4	-2.7	-2.7	+1.4	+0.7	-1.7	+0.2	+0.3	-0.1	+0.1	-0.6
無装飾G	-3.6	+0.3	+0.8	+0.2	+0.8	+1.8	+1.9	-0.2	-0.4	-0.8	-0.1	-0.8	-1.5	+0.4	+2.3
居住者要因の凡例	A:子と2世代,3世代 + 20~30才代 B:子と2世代,3世代 + 40~50才代 C:子と2世代,3世代 + 60才代以上 D:夫婦のみ,親と2世代 + 20~30才代 E:夫婦のみ,親と2世代 + 40~50才代 F:夫婦のみ,親と2世代 + 60才代					A:500万円未満 B:500~1000万円未満 C:1000~1500万円未満 D:1500万円以上				A:1年未満 E:10~15年未満 B:1~3年未満 C:3~5年未満 D:5~10年未満					

(注)数字は標準化残差を、**+1.5**印は標準化残差+1.0以上、**-1.5**印は標準化残差-1.0以下を示す。(以下、表-8、表-9も同じ)

表8 クリスマス装飾と空間要因の関連性

クリスマスの装飾タイプ	空地面積				庭のタイプ					
	A	B	C	D	A	B	C	D	E	F
電飾+樹木装飾G	-1.5	-0.9	+0.3	+5.2	-2.2	+5.7	-1.3	-0.7	-0.3	-1.7
電飾G	-1.2	-0.7	-0.4	+0.7	-0.8	+0.1	+0.9	+0.4	-0.5	-1.0
樹木装飾G	+0.3	+0.3	-0.7	-0.4	-1.0	+1.6	+0.5	-0.6	+0.2	-1.5
リース装飾G	-1.2	+0.6	-1.4	-1.4	-1.8	+0.1	+1.3	+0.6	-1.4	+0.8
無装飾G	-0.6	+0.1	+1.0	-1.3	+2.4	-2.8	-0.7	0.0	+1.0	+1.1
空間要因の凡例	A:125㎡未満 B:125~175㎡未満 C:175~225㎡未満 D:225㎡以上				A:和風の庭 E:樹林主体の庭 B:洋風の庭 F:何もない庭 C:和洋折衷の庭 D:草花主体の庭					

表9 クリスマス装飾と空間要因の関連性(ワシントン村を除いた場合)

クリスマスの装飾タイプ	空地面積				庭のタイプ					
	A	B	C	D	A	B	C	D	E	F
電飾+樹木装飾G	-1.2	-0.3	+0.4	+2.8	-1.7	+3.8	-0.6	-0.5	+0.3	-1.5
電飾G	-1.2	-0.6	-0.3	+0.2	-0.8	+0.6	+1.1	+0.1	-1.0	-1.0
樹木装飾G	+0.4	+0.4	-0.6	-1.0	-1.0	+1.6	+0.5	-0.5	+0.2	-1.5
リース装飾G	+1.1	+0.4	-1.4	-1.0	-1.9	+0.5	+1.1	+0.6	-1.4	+0.7
無装飾G	-0.7	-0.1	+0.9	-0.2	+2.1	-2.2	-0.9	0.0	+0.9	+0.9
空間要因の凡例	A:125㎡未満 B:125~175㎡未満 C:175~225㎡未満 D:225㎡以上				A:和風の庭 E:樹林主体の庭 B:洋風の庭 F:何もない庭 C:和洋折衷の庭 D:草花主体の庭					

費がかかる」「樹木がかわいそう」「エネルギーの無駄」「日本に馴染まず」「周囲から浮き上がる」は、いずれもクリスマス装飾を実施していない「無装飾G」での指摘率が高い傾向にある。この中で「経費がかかる」では、「無装飾G」と「電飾G」の間に有意な差があるに留まっているが、「エネルギーの無駄」については、「電飾+樹木装飾G」「電飾G」は、他のグループとは有意に低い評価となっている。すなわち、電飾を実施しているグループでは、自らの行為を肯定的に判断しようとする姿勢が見られる。「日本に馴染まず」では、装飾を実施しているグループは、「無装飾G」と比較して有意に低い評価で、日本に馴染まない行為とは感じていないことが分かる。

以上のように、クリスマス装飾の実施の有無により、クリスマス装飾に対する評価は異なっており、クリスマス装飾を実施するグループは、実施しないグループよりも肯定的な意識を有していることが明らかとなった。

6. クリスマス装飾と居住者及び空間要因との関連性

クリスマス装飾タイプと居住者及び空間要因との関連性を分析した結果、居住者要因では家族構成、家族の最若年齢、世帯主の年齢、世帯収入、居住年数の5項目、空間要因では敷地面積、空地面積、建物外観、庭のタイプの4項目との有意な関連性が見いだされた。ここで、諸要因間の内部相関を検討した結果、家族構成、家族の最若年齢、世帯主の年齢の間に顕著な相関が見いだされた。すなわち世帯主の年齢の増加に比例して、最若年齢も増加する傾向にあることなどより、これらの項目を統合化した「家族構成+世帯主の年齢」を設定した。したがって、居住者要因としては「家族構成+世帯主の年齢」「世帯年収」「居住年数」の3項目との関係性を以下検討した。また、「空地面積」と「敷地面積」、「住宅の外観」と「庭のタイプ」の間に顕著な相関が見いだされた。

すなわち、「住宅の外観」の純和風(日本の伝統的な様式を踏襲した建物外観)、洋風(純和風とは判断しがたい、いわゆる西洋風の現代的な建物外観)は、それぞれ「庭のタイプ」の和風の庭、洋風の庭との関係性が強い。また、「敷地面積」の増大に比例して「空地面積」が増大する傾向にある。したがって、空間要因としては「空地面積」「庭のタイプ」との関係性を以下検討する。

クリスマス装飾タイプと有意な関連性を示す諸要因とのクロス分析結果は、表7～9に示すとおりである。表中の数字は標準化残差(観測度数から期待度数を引き、期待度数の平方根で割ったもの)で、プラス側にいくほど両者の関連性が相対的に強いことを示している。

「家族構成+世帯主の年齢」との関連性では、「電飾+樹木装飾G」の実施率が、家族構成に関係なく20～30才代で高い。また、子供を持つ(子と2世代、3世代)20～30才代では、「樹木装飾G」「リース装飾G」の実施率も高い。一方、60才代で特に子供を持たない家族(夫婦のみ、親と2世代)で、「無装飾G」の割合が高くなっている。以上のことは、幼少児や小中学生を持つ、20～30才代の世帯主の、2世代および3世代の家族でのクリスマス装飾率が高い傾向にあることを示している。

世帯年収との関連性では、1500万円以上で「電飾+樹木装飾G」「樹木装飾G」の実施率が高く、1000～1500万円未満で「電飾G」の実施率が高い。逆に500万円未満では「無装飾G」の割合が高く、500～1000万円未満では「リース装飾G」の実施率が高くなっている。すなわち、年収が高い程、より積極的なクリスマス装飾を実施する傾向が読みとれる。

居住年数との関連性では、3～5年未満で「電飾+樹木装飾G」「電飾G」の実施率が高く、1～3年未満でも「電飾+樹木装飾G」の実施率が高い。逆に10～15年未満では「無装飾G」の割合が高くなっている。すなわち、居住年数10年以上の世帯では屋外でのクリスマス装飾の実施率が低く、入居数年後の世帯ではクリスマス装飾が積極的に行われる傾向にある。

空地面積との関連性では、敷地規模も最も広い住宅地である225m²以上の空地面積で「電飾+樹木装飾G」の実施率が顕著に高くなっている。一方、空地面積の最も狭い住宅地では「電飾G」「リース装飾G」の実施率が高い。すなわち、区画面積の大きい住宅地で一定程度の空地を確保することが積極的なクリスマス装飾につながる傾向が読みとれる。ただし、空地面積225m²以上で積極的なクリスマス装飾を実施している傾向には、敷地規模の広いワシントン村の影響が起因していると考えられる。ここで、ワシントン村を除いたケースで分析した結果(表9)をみると、有意水準0.08で、標準化残差の値は小さくなるが全体の傾向としてはほぼ同様であることが読みとれる。

庭のタイプとの関連性では、洋風の住宅外観を多く持つ洋風の庭で「電飾+樹木装飾G」の実施率が高いのが顕著で、「樹木装飾G」の実施率も高くなっている。逆に純和風の住宅外観を多く持つ和風の庭では、「無装飾G」の割合が高くなっている。すなわち、住宅の外観及び庭の洋風化が、クリスマス装飾の活発化に関係している傾向が読みとれる。庭のタイプとの関連性についても、ワシントン村を除いたケースでの分析を試みた結果(表9)、標準化残差の値は小さくなるが、全体としてはほぼ同様の傾向を示していることが確認できた。

なお、道路との隣接部の環境条件(道路と壁面の距離、庭と道路の高低差、生垣の高さ)との有意な関連性は本調査では確認できなかったが、具体的な演出のレベルでは重要な要因であると推測されるので、クリスマス装飾の位置や飾り方も含めた詳細な検討が別途必要であると考える。

7. ま と め

以上の分析を通じて以下の事柄が明らかとなった。

まず、クリスマス装飾の実施理由の分析結果から、クリスマス装飾が積極的になるほど、街路景観への意識が高くなる傾向にあることが明らかとなった。すなわち、クリスマス装飾を実施すること自体が街路景観に配慮した庭づくりを考えるきっかけになり、ひいては私的空間での季節性の演出が、街路景観に配慮した庭空間の整備や管理を行う契機となることを示唆していると考えられる。

次に、クリスマス装飾が、「まちのにぎわい」「美化意識高揚」などの居住環境の向上に寄与しており、特にクリスマス装飾を実施するグループでの評価が高いことが明らかとなった。このことは、クリスマス期などの街並みの変化性に着目して、戸建て住宅地の私的空間での季節性の演出を活性化させることが、居住者側の評価としても居住環境の質の向上に有効であることを示唆していると考えられる。

クリスマス装飾の演出性を高めるためには、居住者要因と空間要因を同時に考慮しておく必要がある。本研究の分析結果からは、戸建て住宅地の計画においては、幼少児や小中学生がいる家族を想定した住戸を含み、建物の外観や庭のタイプなどの洋風化が、地域ぐるみでのクリスマス演出の活性化に影響すると推測される。

今後、戸建て住宅地の私的空間において、花や緑による演出行為やクリスマス以外の年中行事に係わる演出行為などについての実態を調査し、非日常的な変化性に配慮したまちづくりのあり方について、多面的な検討を加えていくことが課題といえる。

文 献

- 下村泰彦(1994)都市街路における歩行空間整備に関する基礎的研究. 大阪府立大学紀要, **46**, pp195-235.
- 田畑貞寿(1983)緑被空間からみた居住環境の安定化に関する研究. 都市計画学会論文集, **18**, pp127-132.
- 篠原修他(1983)街路景観に関する実験心理学的研究-沿道建物の位置, 間口, 高さの影響-. 土木計画学研究.
- 下村泰彦(1991)昼夜間における街路景観の評価構造特性に関する研究. 造園雑誌, **54**(5), pp269-274.
- 上甫木昭春(1998)居住環境形成に資する戸建て住宅地の庭空間の役割に関する研究. ランドスケープ研究, **61**(5), pp793-796.
- 石井研士(1994)都市の年中行事・変容する日本人の心性. 春秋社.
(1998年6月5日受付)
- (1998年7月29日受理)